

第3問 (20点)

連結第2年度

連結精算表 (単位：千円)

科目	個別財務諸表		修正・消去	連結財務諸表
	P社	S社		
貸借対照表				連結財務諸表
資産	1,650,000	840,000		連結貸借対照表
負債	450,000	300,000	150,000	2,490,000
純資産	750,000	300,000	15,000	600,000
S社株	450,000		450,000	1,035,000
土地	150,000		50,000	100,000
[のれん]			81,000	72,000
資産合計	3,450,000	1,440,000	81,000	4,297,000
負債	(591,000)	(264,000)		(855,000)
買掛	(240,000)	(255,000)	150,000	(345,000)
貸倒引当金	(9,000)	(6,000)	3,000	(12,000)
資本	(2,100,000)	(450,000)	450,000	(2,100,000)
資本剰余金	(150,000)	(120,000)	120,000	(150,000)
利益剰余金	(360,000)	(345,000)	1,304,000	(489,000)
非支配株主持分			50,000	(346,000)
負債・純資産合計	(3,450,000)	(1,440,000)	2,077,000	(4,297,000)
損益計算書				連結損益計算書
売上高	(3,600,000)	(2,700,000)	990,000	(5,310,000)
売上原価	2,700,000	2,160,000	15,000	3,885,000
販売費及び一般管理費	750,000	405,000	3,000	1,152,000
営業外収益	(210,000)	(100,000)	45,000	(265,000)
営業外費用	30,000	15,000		45,000
特別利益		(50,000)	50,000	
[のれん]償却			9,000	9,000
当期純利益	(330,000)	(270,000)	1,109,000	(484,000)
非支配株主に帰属する当期純利益			108,000	88,000
親会社株主に帰属する当期純利益			1,217,000	396,000
株主資本等変動計算書				連結株主資本等変動計算書
利益剰余金当期首残高	(240,000)	(150,000)	87,000	(303,000)
配当金	210,000	75,000	75,000	210,000
親会社株主に帰属する当期純利益	(330,000)	(270,000)	1,217,000	(396,000)
利益剰余金当期末残高	(360,000)	(345,000)	1,304,000	(489,000)
非支配株主持分当期首残高				(288,000)
非支配株主持分当期変動額			30,000	(58,000)
非支配株主持分当期末残高			20,000	
非支配株主持分当期首残高			50,000	(346,000)

1つにつき2点を与える。合計20点。

(52)

(\* 1) (450,000千円 + 120,000千円 + 30,000千円) × 非支配株主持分40%  
= 240,000千円

(\* 2) 貸借差額

2. 支配獲得日後1年目の連結修正仕訳

(1) 開始仕訳

支配獲得日の連結修正仕訳（投資と資本の相殺消去）を再度行います。なお、純資産項目には「当期首残高」をつけます。

(資本金当期首残高)	450,000	(S社株式)	450,000
(資本剰余金当期首残高)	120,000	(非支配株主持分当期首残高)	240,000
(利益剰余金当期首残高)	30,000		
(のれん)	90,000		

(2) 連結修正仕訳

純資産項目について、その期に金額が増減する場合は、「当期変動額」をつけます。

① のれんの償却

(のれん償却)(\* 9,000 (のれん) 9,000

(\* 90,000千円 ÷ 10年 = 9,000千円

② 子会社の当期純利益の振り替え

(非支配株主持分当期純利益)(\* 48,000 (非支配株主持分当期変動額) 48,000

(\* 120,000千円 × 40% = 48,000千円

3. 当期（支配獲得日後2年目）の連結修正仕訳<解答要求期間>

(1) 開始仕訳

前期末に行った連結修正仕訳を再度行います。なお、損益項目は「利益剰余金当期首残高」に、非支配株主持分当期変動額は、「非支配株主持分当期首残高」にまとめます。

(資本金当期首残高)	450,000	(S社株式)	450,000
(資本剰余金当期首残高)	120,000	(非支配株主持分当期首残高)(* 3)	288,000
(利益剰余金当期首残高)(* 1)	87,000		
(のれん)(* 2)	81,000		

(\* 1) 30,000千円 + 9,000千円 + 48,000千円 = 87,000千円

(\* 2) 90,000千円 - 9,000千円 = 81,000千円

(\* 3) 240,000千円 + 48,000千円 = 288,000千円

(2) 連結修正仕訳

① のれんの償却

(のれん償却)(\* 9,000 (のれん) 9,000

(\* 90,000千円 ÷ 10年 = 9,000千円

② 子会社の当期純利益の振り替え

(非支配株主持分当期純利益)(\* 108,000 (非支配株主持分当期変動額) 108,000

(\* 270,000千円 × 40% = 108,000千円

(59)

### 第3問

連結精算表は、個別財務諸表の金額をもとに連結修正仕訳の金額を加減して、連結財務諸表（連結損益計算書、連結貸借対照表、連結株主資本等変動計算書）を作成するまでの過程を1つにまとめた表をいいます。以下、解答に必要な仕訳を示します。

(仕訳の単位：千円)

1. 支配獲得日の連結修正仕訳

支配獲得時の子会社の貸借対照表にもとづいて、投資と資本の相殺消去を行います。

(資本金)	450,000	(S社株式)	450,000
(資本剰余金)	120,000	(非支配株主持分)(* 1)	240,000
(利益剰余金)	30,000		
(のれん)(* 2)	90,000		

(58)

③ 配当金の修正

(受取配当金)(*1)	45,000	(配当金)	75,000
営業外収益			
(非支配株主持分当期変動額)(*2)	30,000		

(\*1)  $75,000 \text{千円} \times 60\% = 45,000 \text{千円}$

(\*2)  $75,000 \text{千円} \times 40\% = 30,000 \text{千円}$

④ 内部取引高(売上高・売上原価)の相殺

親子会社間で行われた内部取引は、相殺消去します。

(売上高)	990,000	(売上原価)	990,000
-------	---------	--------	---------

⑤ 期末商品に含まれる未実現利益の消去

期末商品棚卸高のうち、親会社から仕入れた商品については、加算されている利益を消去します。

(売上原価)(* )	15,000	(商品)	15,000
------------	--------	------	--------

(\* )  $60,000 \text{千円} \times 25\% = 15,000 \text{千円}$

⑥ 債権・債務の相殺

債権債務が相殺消去された場合には、その債権に対して設定した貸倒引当金も修正する必要があります。

(買掛金)	150,000	(売掛金)	150,000
(貸倒引当金)(* )	3,000	(貸倒引当金繰入)	3,000
		販売費及び一般管理費	

(\* )  $150,000 \text{千円} \times 2\% = 3,000 \text{千円}$

⑦ 土地に含まれる未実現利益の消去

子会社から購入した土地については、加算されている利益を消去します。また、子会社から購入した土地の未実現利益を消去した場合、消去した未実現利益について、非支配株主にも負担させます。

(土地売却)(*1)	50,000	(土地)	50,000
特別利益			
(非支配株主持分当期変動額)(*2)	20,000	(非支配株主に帰属する当期純利益)	20,000

(\*1)  $150,000 \text{千円} - 100,000 \text{千円} = 50,000 \text{千円}$

(\*2)  $50,000 \text{千円} \times 40\% = 20,000 \text{千円}$

4. 連結精算表の記入

(1) 連結貸借対照表欄の記入

純資産(本問では、利益剰余金と非支配株主持分のみ)の金額については、あとで連結株主資本等変動計算書の金額を移記します。

(2) 連結損益計算書欄の記入

当期純利益(親会社株主に帰属する当期純利益)の金額については、連結財務諸表欄から計算します。

(60)

(3) 連結株主資本等変動計算書欄の記入

利益剰余金当期変動額の「親会社株主に帰属する当期純利益」の金額は、連結損益計算書の「親会社株主に帰属する当期純利益」の金額を記入します。

(61)